

はまぐち誠

経済産業委員会で質問に立つ！

皆さんの声を、国会に届ける！

原 賠 機 構 法 案 に つ い て



CHECK POINT①【現地現物主義】

- 質問を前に、経済産業委員会メンバーで**福島第一原子力発電所を視察**。現地では約6,000名の作業員が、完全廃炉に向け、それぞれの持ち場・立場で懸命に作業にあたられていました。現地現物で感じたことも踏まえ、質問に立ちました。



CHECK POINT②【国民目線】

- 汚染水処理対策や、高レベル放射性廃棄物最終処分地選定の現状と課題について政府を質し、**国民との丁寧な対話・理解活動促進の重要性**を訴えました。

※本誌の内容は、質問の一部です。

是非、参議院インターネット中継(生・録画)で実際の質疑の様子をご覧ください！

<http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>

〔主な質疑と答弁〕

- 先般、福島第一原発を視察した。経験できない貴重な機会を設けていただいたことに御礼申し上げる。今日このときも6千人の方がそれぞれの持ち場・立場で廃炉に向けて、また汚染水対策に取り組まれている。
- 廃炉に向けての大きな課題の一つが汚染水処理対策。
事故当初に日量400トンだった原子炉建屋内へ流入する地下水の直近の水量は？
→直近では約120トンまで低減。
- 地下水の流入量は、山の雪解けの影響など季節変動はあるのか？
→山側の雪解け水は建物よりずっと下の方を通っている。雪解け等の冬の水の影響よりも、台風等により水位が上がる傾向にある。
- 地下水流入量抑制のための凍土壁だが、海・山側両面固められているが、西の三だけが凍らせていない。将来的にはクローズするのか。また、そうしたことで効果はあるのか？
→排水の逆転が起こらないこと、炉心冷却している冷却水などのバランスを見ながら閉じることになる。効果についてはまだ実績がない。
- 地下水抑制が期待されるサブドレーンだが、最新の状況を確認したい。
→くみ上げ井戸全42基のうち、平均35基が稼働。日量540トンにくみ上げている。今後既存井戸の復旧、新設井戸の口径拡大などを進めたい。
- 有効な対策の一つ。引き続きの対応をお願いしたい。
- 汚染水とトリチウム水について、現状どれくらいあるのか？
→全体としては95トン。うち、ALPS等で除去した水は74トン、その他で21トン。
- そうした水はタンクで保管されているが、水の量と保管するタンクの整合性はとれているか？
→当面は支障がない。現時点で2020年までに55万トンのタンクを新設予定。
- ALPSで処理されたトリチウム水は、環境や人体の健康に影響はあるのか？
→告示で定めた濃度以下であれば、希釈されて健康被害はないものと考えていい。
- 汚染水をALPSで処理した際、二次廃棄物が出る。どれくらいの量か？
→1.5×2~3mの大きさの吸着塔が1200本。保管容器は2400本。その他9900m³の廃液等がある。
- たくさんの量があると改めて感じた。こうしたものの処理に対する所見を伺いたい。
→科学的な観点も重要だが、風評被害など社会的な観点も含め総合的な議論が必要。その議論をする場を設置した。相当丁寧な議論をして検討を進める必要がある。
- 福島の方の要望もあると思う。単に経済性原理だけでなく、風評被害など様々な観点を踏まえた対応をお願いしたい。
- 最終処分地選定に向けてNUMOで議論が進められている。その中で地域の科学的特性を反映して日本全国を色分けするマップの作成が進められている。具体的にどんなイメージか？
→科学性特性マップ。火山からの距離や活断層の有無など科学的な基準に基づいて地域の特性を客観的に区分するもの。
- このマップは最終処分地を決める第一ステップになると思う。分かり易く示すことが重要。
- マップを提示した後の最終処分地選定に向けたステップ・考え方は？
→今の世代の責任で解決すべき重要な課題。他方、今に至るまで選定どころか必要な調査さえ着手出来ていない現状。そこで始めたのがマップの提示。このマップによって、国民の皆さんに理解と関心を深めてもらう。地域の方々とも対話を積み重ね、丁寧に一歩ずつ進めたい。
- まさに丁寧な対話・理解活動が大事。
- エネルギー基本計画の第5章に、エネルギーに関する国民各層の理解の増進・双方向のコミュニケーションの充実などがうたわれている。具体策である第三者による情報発信や、地域のエネルギー協議会の状況は？
→第三者とは、民間調査機関やメディア、NPO・NGOなどの人たち。この人たちが分析等を発信できる土台作りを行っている。二つ目は全国で開催しているエネルギー・温暖化対策推進会議の場で、国と自治体双方からの情報発信と意見交換を実施。こうした取り組みを通じ、国民各層とのコミュニケーションを強化して、エネルギー政策の透明性・信頼性を高めていきたい。
- 国民の皆さんとの対話が本当に重要。最後に重ねてお願いしたい。